

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200957		
法人名	(株)オールブルー		
事業所名	多機能ホーム 澄海		
所在地	長崎県佐世保市小佐世保町415-8		
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_021_kani=true&JigvosvoCd=4290200957-00&PrefCd=42&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 2 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔追求を理念に利用者様の笑顔を引き出せるように毎日の援助を行っております。利用者様が理想とされる『生活』を第一に考え、本人様の希望に添えるようなケアをして行っております。これからは地域の方々との連携を深め、地域の中での当事業所が果たせる役割というものを見つけ出していき、活かすことが出来るように取り組んでいきたい。前回の評価よりもスタッフの技術は向上し、質の面でのレベルアップをしていっているものと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は建物2階部分にサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)と併設するデイサービスがあり、地域からはハッピーライフ小佐世保の名前で定着している。サ高住の住人と地域の方が利用しており、前回受審後に開催した夏祭りには利用者・家族・地域の方が多く参加し地域との交流を深める事に繋がった。職員はできるだけ利用者の希望に沿えるよう買い物や外出の支援に取り組んでおり、移動販売での買い物は地域の方との交流の場ともなり好評である。また、管理者と職員の関係も良好で、職員に係を配置する事で積極的な意見を言える関係を作り、職員はやりがいを持って日々支援に取り組んでいる。開設4年目を迎え前回の反省を活かし、管理者・職員が理念に掲げる「笑顔追求」の為に努力する姿勢が窺え、今後も更に期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

多機能ホーム 澄海

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔追求の理念のもとに、スタッフ一同明るく利用者様に接するようにしている。管理者はスタッフが思い切ってケアにあたるよう褒めながらの指導を心がけている。	利用者に喜んでもらえるような行事だけでなく、普段から笑顔が出る生活が送れるよう理念の実践に取り組んでいる。若い職員の人間形成においても褒めて伸ばすよう努め、理念に沿った支援に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での町内の方の発言や、夏祭りなどでの地域との交流を図っている。	今年度夏祭りを開催し、利用者・家族・地域の方等が大勢参加し、地域との交流にも繋がった。今後は日本の伝統行事に取組、地域に密着させる為にも餅つきを計画している。また、大学生のインターンシップ等を利用し、行事等に繋げる事を検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか積み上げてきている内容というものを地域の中で活かすという機会が乏しくできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月に一回の定期的な開催により、活動内容などへの理解をしてもらうことが出来てきている様子。	前回受審後、包括・民生委員に加え、老人会会長・利用者等が参加し状況報告や行事予定、参加者からの意見・質問等が交わされている。今後は事業所の取組や状況を知ってもらうよう議事録を家族へも配布する事を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出など市役所への出入りは多く、その際に連絡を密にとり公的サービスの部分以外にも協力関係が出来ていると考えている。	市役所には公的サービスの手続き等を通し、いつでも相談できる関係性である。人手不足を改善するためハローワークを通し求人を出しているの、是非努めてほしいと願っている。また、介護報酬が今後の経営に影響を与えないよう切に願っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないということは前提であるが、まずは対象となる利用者様がないことが一番に挙げられる。知識としてはスタッフの中にはしないということの意識は浸透している。	接遇マナーの研修と共に言葉遣いについても研修を実施し、利用者に対する言葉や対応が適切か振り返り身体拘束についての弊害の認識している。転倒防止の為、家族の了承を得て夜間のみセンサーを使用している方がいる。また、薬についても本人と話し、使用しない事で改善した事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはお互いがきびしい声掛けをしていないか、など虐待を行っていないかを監視しながら注意できるような環境を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に研修等での学ぶ機会しか活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明者が十分に説明を行い、不明な点があれば後日に聞くことが出来るような体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様との会話の中で利用者様への思いなどを引き出している。また広報誌などでの発信に努めている。	家族へ普段の様子を話す事、挨拶をする事で信頼関係を築くよう努め、お互いにいい事・よくない事・心配な事を話せる関係性が出来るよう取り組んでいる。前回の受審以降、広報誌内容を改善し写真を載せる事で好評を得ている。また、時間外の対応について、事務員不在時は職員から仮領収書を発行し、後日領収書を郵送するよう改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフと密に話す機会を設けている。またスタッフミーティングでの意見の出し合いの中で反映させている。	職員が係を担当する事でより意見が出て、言語聴覚士からの口腔ケア研修で嚥下体操を取り入れたり、様々な行事・イベントに関しても、利用者が楽しめるよう職員から積極的に意見が出て反映している。全職員が取り組む事で理念の実践(笑顔追求)にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じた役職の配置など努めている。資格取得のサポートなどにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフへは勤務時間を既存のスタッフと同じにし早く覚えることが出来るような体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模の会や個人的に連絡を取りながら交流をしていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査などで本人様が困っていることなどを聞き出すような体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に御家族様とはクレームにつながりもめたりすることもあり、話し合いの中で十分に理解が出来るような環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所の利用なども含め大きくサービスをとらえながらその人に合った介護を考えていっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活になってしまうので、人間関係の構築がスタッフの知らないところまでできまったりし、入り込めないことがある。トラブルが利用者様同士であっている様子。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での様子を広報誌の中で伝えていき、澄海内での出来事をわかっていただけるようにしている。その他直接御家族様に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が行きたいところに行けるような支援状況を整えているがなかなか本人様からの要望は少ない。	利用者・家族の希望を取り入れ、「～さんに会いたい」、お墓参り、冠婚葬祭へ家族の協力の下参加できるよう支援に取り組んでいる。馴染みの美容室や床屋は利用者の希望に沿って職員が支援するよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声掛けを行ったりと支援はしているが本人様の希望で一人が好きの方もおられ判断が難しい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡をたまに取るようにし、本人様の様子などを聞き取っていくようにしている。がなかなか連絡の機会がつかめない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、本人様の思いを引き出していくようにしている。しかしなかなか引き出せていない部分が多いと感じる。	利用者のニーズを把握する事に力を入れ、会話の中から思いを汲み取るよう努めているが、馴染みの場所が出てこない方や、会話が困難な方等の課題等不十分である事を認識している。	利用者が職員へ話しやすい(意思表示できる)雰囲気や状況を作り、思いや意向を更に汲み取る工夫をするよう期待したい。(例えばヒヤリハット体験からなぜそうしたのか、また、家族に話を聞き、思い出話や写真を使う事で本人の反応を窺い思いを汲み取る等。)
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当制を実施し、生活歴や御家族様との調整など、担当者がリサーチし本人様の過去の状況等つかんでいくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24と一緒に担当者が特にその人を見つめることによって把握をしていくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファやスタッフミーティングで出た意見をもとにサービス担当者会議の中で活かすことが出来るように努めている。	担当制を設け、カンファレンスや職員ミーティングで出た意見をサービス担当者会議で話し合い、ケアマネが計画書に反映しサービスに活かせるよう取組んでいる。人工透析等の方の健康管理をする事も介護としてとらえ、職員や家族と相談しながら対応策を工夫する等取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り事項などを強化し個々の変化に対応していくようにしている。記録に関しては参考にできる記録は今のところ少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人本人の事を見つめ、柔軟なサービスが出来るよう小規模多機能のサービスを活かすことが出来るようミーティングなどで考えていっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルな資源を活用し、本人様への力が発揮できるようになることが出来るように心がけている。(移動販売のバスなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービスを利用するにあたって、主治医を変えたりすることがないよう本人様、御家族様に説明をし主治医との連携をとっている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医で家族の協力を得ながら、職員と家族で支援している。看護師が各主治医と連携を取り、利用者の健康に配慮した状態に応じて適切な医療が受けられるように支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が健康状態の把握、主治医との連携をとり、利用者様の健康状態の管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への働きかけはもちろんの事、様子を見に行ったり、こちらでの様子を伝えたりと、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関することを普段から聞き取りを行い、方向性を本人様・御家族様と決めている。澄海でできないことなどは初めの段階で伝えておき、選択肢の幅を広げようとしている。	終末期に関しては現在の協力医と連携しつつ、本人・家族・医師と相談しながら方向性を決めるようにしている。事業所でできる範囲で支援に努める方針であるが、医療がメインとなってきたら特養や他施設等に移設するのが現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には連絡するなど、スタッフが協力をしてことにあたり、適切な対応が何度となく出来ている。(実績あり)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	スプリンクラーなどの施設的な面に頼るのではなく、避難訓練などを通して、危機感を保っていけるように普段からの事に気を付けている。	年2回昼間想定で併設デイサービス利用者やサ高住住人の共同での訓練を実施している。今後は夜間想定での訓練実施をお願いしたい。現在消防署を含めた訓練を検討中である。また、ハザードマップの確認、近隣との協力体制の構築も検討中である。	全職員が避難する時の流れや動きを体得できるよう自主訓練等も実施する事と訓練の検証は文章としても記録する事を期待したい。自然災害や引き起こされる断水等の状況を踏まえ、防災計画の作成も期待したい。また、備蓄品は消費期限を記載した一覧表を作成する等、管理しやすいようお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様が不快にならないような態度や言葉かけなどにならないよう、スタッフ同士でチェックをしていけるように考えている。	利用者個々に合わせ言葉や態度が不快と取られないよう、職員同士でも注意喚起をしている。また、利用者同士のトラブルに関しても家族へも説明しその後のトラブルに繋がらないよう取組んでいる。利用者との年齢差による、職員個々に応じた言葉遣いが今後の課題である。	利用者に合わせた言葉や対応、利用者同士の仲介等、様々な状況に応じた言葉かけができるよう、接遇マナーの研修会・勉強会を通して基本マナーを振り返る事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いを大事にし、本人様が決定していけるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせる事が出来るように柔軟なサービスを考え、会話の中で本人様の思いを引き出していけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なかなか、本人様からのおしゃれの面に関しての要望は聞いたことがない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	席の配置などを考え、食事中に不快な思いをさせないように配慮している。また嗜好調査などを行いメニューにも配慮が出来るようにしている。	食事は毎日の仕入れによって厨房職員が調理し、利用者はテーブル拭きや下膳等の手伝いを行っている。外食気分を楽しんでもらおうと月に1回お弁当の日(注文する店を毎回変えている)を設け、利用者は好きなお弁当を頼み、それぞれのお弁当の話等の会話を楽しんでいる様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などはチェック表を作り記入しわかるようにしている。栄養面はメニューなどを考え、バランスがよい献立を考えていつている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを実践し、(声掛けなど)義歯の調整などは往診の歯科医師に依頼するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導やパットを使う場合も大きさなどを考え、その人に合ったものを考えている。ポータブルトイレなども使用を適宜考えオムツ使用の軽減に努めている。	おむつを使用する事の不快さを認識し、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、利用者に応じたトイレ誘導や適切なパットを使うよう心がけ、過去にはトイレで排便ができるようになった改善例があった。外出の際も身体障害者用のトイレのチェックや、利用者の状態に応じてパットを変える等の工夫をし外出できるように繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、自然な排便が出来るように行っているが、薬の服用による排便をされている方も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なかなか難しい面があり、決めてしまわずに入浴を行っていくというのは出来ない。入ってからの時間については本人様のペースに合わせている。	週に2~3回、利用者の希望に応じてゆっくり入浴できるよう配慮している。ベンチ付き浴槽や座シャワーが設置してあり、利用者の状態に応じて使用している。年に2~3回は温泉に行く事もあり、温泉後の個々の希望に応じた買い物やドライブ等も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝も含めて本人様の休息といった面で配慮を行っている。夜間の巡回などを安眠を妨げないような配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬紙をもらうようにし、薬剤に対してスタッフが把握できるように配慮している。チェック表を作り、適切に飲ませることが出来たかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出やイベントの機会気分転換が出来るように配慮している。その他レクリエーションなど。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	車椅子利用の人などなかなか実現できることではないが、本人様の希望に添えるような支援は行っている。出来る限りの支援。	車椅子使用の方も福祉車両を使用する事で、買い物や銀行へ行く等の希望に応えられるよう支援に取り組んでいる。また、スーパーや移動販売での買い物、銀行へ職員と共に出かけ、お金の管理ができる方は本人ができるよう支援に取り組んでいる。春・秋には施設前を歩行訓練する利用者も増え、散歩する様子が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難などで持つ大切さより、持っていることのリスクの方が大きく、小銭程度しか持つことが出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ポストへの投かんなど本人様が連絡を取っていきやすいような環境作りは出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をまめに行っており、電球などの交換もまめに行っている。また季節の飾り物なども行い季節感を出せるように配慮している。	利用者の多くは建物2階のサービス付き高齢者向け住宅の方が多く、帰る時は階段を使用したり、ポータブルトイレより普通のトイレへ促す事で自立できるよう努めている。体操やレクリエーションを住人と利用者が一緒に行ったり、状態に合わせて机の高さを変える(買い替え)等、皆が居心地良く過ごせるように努めている。訪問者や利用者等皆が動きやすいよう広めのスペースで動線を確保し安全に配慮してある様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席などの配慮を行い、話が合うとそこで話し込み、合わないときなどは個室での対応を行ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真など個人で落ち着けることが出来るような配慮を行っており、自宅と同じような利用が出来るような配慮を行っていている。	利用者・家族の要望・状況を見ながら臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。宿泊を利用する方の部屋は変えないようにし、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様が出来ること出来ないことを見極めていくことが出来るようスタッフが観察を行い、安全面にももちろん配慮しながら介助を行っていている。		